

ふるさと探訪

新々の記

御堂・言動・遊歩道



「三どう探訪」

葉月・八月・盆の月。盂蘭盆に帰省して、帰心を満たし、帰郷の墓参や再会の絆を固める月になると「ぶらり探訪」がしたくなる。なんとなく...

御堂：仏を安置する堂が東十号道道脇に移転新築されたのは、一九九七年(平成六)九月のこと。地域に根づく谷汲山の観音堂は、地主の好意と管理人の熱意と有志の善意などが実を結んで、上川新西国三十三ヶ所霊場第三十三番札所の地藏尊と共に移築されたのである。

そつえば、梅田から難波までの「御堂筋」とは大阪市の幹線道路であるが、去年の五月、老妻と緩り気分の「大阪の旅写真」を見て直ぐ、温泉入りの車窓から御堂を眺めて「ほんわか」となったのも最近のこと。言動：御堂からどうして言動へと飛躍するのかと「つと」、合掌祈願・感謝など「」の瞬間に「ひびく言葉」と表われる動作が気になって、どうにも仕方がないところだからである。

合掌は胸の前で両方の手のひらと指を合わせることで、インドの古来の礼儀作法が礼拝の形式とされる。

たものであるという。

合掌や礼拝には、その時やその場での「気持ちたしなみ・心掛け」と体調などによっては無言や不動の表現もある。黙禱や黙然がこれであり、黙って祈り、黙っているさまである。

そつえば、カタカナとひらがなは読み書きし、漢字は家族と親類の人名と小学校一・二年程度(それも努力傾注して)が読めるだけで、念仏往生した母の余生は、聞き覚えた「お経」を仏前で暗唱する毎日であつた。長くて難しいお経を、心と体「のおもむくまに、有無と変・不変の言動に合わせて」。

遊歩道：御堂から言動へと飛躍し、遊歩道へと転移したのにも理由がある。それは隣接した山裾から山頂にかけて設置された新西国八十八ヶ所霊場へと繋がる「遊歩道」のことである。

本来は、庭園・公園内の散策路を遊歩道としていたが、近ごろでは幹線道路の歩道、また、市街地の歩行者専用道路や歩行者天国用道路なども「遊歩道」として。

森林浴や名所旧蹟などへの道にも遊歩道が整備されている。キトウ

シ森林公園家族旅行村の展望閣・ケビン間にも遊歩道が通じているように、御堂から元の道道予定線であつた直線道路の頂上へと通じる遊歩道が欲しいと思う。大雪山連峰の主峰旭岳を望む江卸への山道景観は素晴らしい。正に「オールシーズン」の山並みステージである。

そつえば、二〇〇六年(平成十八)には忠別ダムも完成する予定であり、目下、ダム水源地域レシジョンワークシヨブで周辺施設設備などの計画案を検討中である。当然、遊歩道の開削も検討課題であるが、ヒクマの異常接近で、遊歩道閉鎖二週間という知床五湖のコースは、人と野生動物との共有・共生の難しさを時宜的にアピールしているし、「世界遺産登録期待の中の陣痛」が続くとも報道されている。ふるさとの「ぶらり探訪」は、端的な堂・動・道の関連づけを試みてみた。ところが、気が付くと、脈絡の無い三つのどう、つまり、三どう探訪となり、ピンボケとなつたようだが、さて。

(元)郷土史編集専門員
尾池隆男

人口 / 7,629人(前月比5人) 男 / 3,643人(前月比1人) 女 / 3,986人(前月比4人)
世帯数 / 2,933戸(前月比3戸) 出生 / 5人、死亡 / 5人、転入 / 19人、転出 / 14人 【6月30日現在】
住民登録の手続き上、人口増減と出生・死亡・転入・転出の増減は一致しないことがあります。



本誌の印刷には、大豆インクを使用しています。また用紙には再生紙(100%)を使用しています。